【自由記述欄】※ほぼ記述されたまま、分類して掲載しています。

＜組織に関して＞

富士宮東小は、今年度の第３回定例件から始まり令和５年度、６年度は東部の事務局を担当します。担当者は通級年数１年目、２年目の者です。
大変な仕事が来るなぁと思ってはいましたが、思った以上の負担がありたくさんの方々にご迷惑をおかけしております。
決まってしまったからには最後までと思っていますが、もう少し配慮してもらいたかったです。順番が回ってくるのもわかります。ですが経験が浅いためわからないこともわからず不安が大きいです。通級の仕事は楽しくやり甲斐があります。その気持ちが削がれないよう、少しでもご迷惑とならないようやっていくつもりです。
会員の皆様にご了承いただきたいと思います。

教室数が増え、定数化に向けて大きく変革する時期を迎えています。県事務局の負担は大きいと思います。ありがとうございます。

研修会の引継等、仕事の引継に曖昧な部分がある。期限や手順等が明文化されておらず、経験者の脳内にあるというケースが多いように思われる。会員なら誰でも見られる状態で仕事内容が明確になっているシステムを構築することが、「持続可能な静言研」につながると考える。対応策：クラウド上のドライブや静言研ホームページを利用して、担当の仕事内容をデータベース化しておく。文章にできないような曖昧な内容では、引継に苦労してしまう。

地域や学校によっては「静言研は私的な団体」と扱われて、出張旅費も工面されにくいと聞いた。今後は定数化に伴い指導者数が増え、より規模の大きい団体になるので、静教研に組み込んでもらうとか公認の団体扱いしてもらうとか、公式化するための具体策と行動が必要だと思う。

静言研の加入者が年々減ってきている。同じ人が何年も役員をしている。

定例研の担当や、静言研東部事務局の役割が連続して回ってきて、本来の通級指導の業務を圧迫しています。ことばの教室の担当とみみの教室の担当は通級担当となって１年目と２年目であるため、通級指導の指導法を勉強することに加え、定例研の運営を手探りの中進め、とても大変でした。当番が回ってくるのは仕方がないと思いますが、とても負担です。当番のローテーションの仕方を見直したり、誰が当番になっても負担感が少なく済むように業務内容を精選してスリム化していきたいです。

事務局や研修担当校の負担が大きくなって本来の仕事（授業など）にかかわれないような事態がおきている。ことばの教室としては、言語指導を学べるのは、市教委でも県教委主催の研修会ではなく、ここだと思うので必要を感じる。そのため、業務の削減をし、スリムで持続可能な組織にする必要があると思う。つまり、難聴・言語指導が、この会の発端なので、そこに戻るのがいいと思う。会の規模が大きくなりすぎたのではないか？１０年ぐらい前に、発達通級教室が設置されはじめた頃、発達教室を静言研に加えるかどうかの議論の中に、「入れない」「加入しないほうがいい」という意見が合ったことは正しかったのではないか、と思っている。発達障害については、市町や県教委で多くの研修会が開催されていることや、市内に複数の発達通級教室が設置されている市町が増えてお互いに情報交換もできるようになっていること、中学通級も地域に複数あり連携を取っていることから、静言研の意義が薄れてきていると感じる。発展的解消として、今後対象会員のスリム化の検討も必要だと思う。

本部、地区事務教区の皆様、ありがとうございました。変革期でご苦労されたと思います。
入って良かった、入っていて助かった、仲間がいて良かったと感じられるような静言研にしていきましょう。

運営面で、提出資料・報告類をもっと簡素化したい。指導以外の、教室運営にかかわる情報交換もできたらいいと思っている。

今後の静言研の方向性が心配。通級担当の研修の場としてとても貴重な場だったので、続けていけるところは続けていきたいと思っている。地区の力もつけていくと同時に他地区の方と関われる場の一つとして、静言研はありがたいと思っている。

コロナ禍で顔を合わせての研修を経験していない方たちが増えている。知識は動画視聴だけでも学べるが、その場の参加者の雰囲気等からも学びはある。会員になった方には経験する機会がほしいと思う。

定例研は、刺激を受けたり、自分の指導を見つめ直したりする、大変貴重な機会なので、今後もオンラインでよいので、継続していただきたいと思います。

静言研の組織が大きく変わることに伴う今後の道筋が不安です。

今後の静言研の運営がどうなっていくのか、地区で運営していけるのか、皆さんがどのように考えているのか知りたいです。

リモートでなく、対面型の講演会やワークショップで生の声を聞きたいと思います。「自分たちで進んで研修していくという本来の姿勢を見直したい」「親の会との連携を望む」という声もあります。

区割りの件、補助金辞退の件、いろいろ悩みはつきません。

静言研の改変のその後が心配です。

令和6年度からの静言研の在り方について、不安を感じています。

任意団体の活動を、教員・会計年度職員が通常の勤務内容、体制で行うのは、大変な労力と時間が必要だと思い、自分だったら不安です。

＜補助金・市町予算・勤務に関して＞

補助金のＲ6年度の辞退について、あまりにも突然のため、この件は辞退するにあたり、前もって静言研から市に対し、説明をし、予算化が確定してからしていただきたかった。

パソコンやタブレットなどの購入する名目が指導に使うものとはっきりしているなら、補助金を出してもらえるのではないでしょうか。

幼児の補助金について担当者が処理していたことが問題になり次年度から行政が行うことになりました。それに伴い教材の購入先が指定されることになり自由な購入ができず残念です。補助金そのものが削減される方向なので特に希望はありませんが、ほかの市町ではどのように処理していたのか気になりました。

静言研で買えない物を購入するお金も年々減らされているため、再来年度からの事がとても心配です。

幼児補助金の辞退の件。今まで補助していただいていた金額同等を、市に出してもらえるかなど。

教室経営。教材の予算が不十分。

改めて、非常勤の給料等、処遇の劣悪さを痛感することが多い。今後、幼児の言語、発達通級のポジションを明確にしていくことが求められているのでは。

定例研は、近年行っているリモート形式を継続してほしい。

組織について　今後のあり方

＜勤務に関して＞

運営、所属が、教育委員会から、機構改革で、福祉（こども未来部）に移行されたが、教室は、従来通り学校内にあるため、立場や設備の利用に戸惑う。

静岡市では指導員になると静言研会員になることが求められます。常に勉強がひつようであることは理解しているものの、会費を支払い、担当になれば時間外にも準備をしなければならないことが辛いと感じている職員もいます。

今年度は特に一年間一名欠員のためただでさえ業務が多い中、静言研の活動をするのがとても大変だった。研修も出ることが限られた。

言語指導以外の業務がたくさんあり、指導に専念することが難しい時があります。

幼児ことばの担当の待遇改善をしてほしい。そうして、指導以外の業務も平等にシェアできる環境を整えてほしい。

会計年度職員で、支援員という立場でありがながら正規職員と同じような仕事をしていること。（勤務日数が市役所の職員と同じ）

＜ネットワーク環境に関して＞

学齢の言語と発達はICT環境が整っているが、幼児言語は環境がない。インターネット環境があれば、zoom参加ができ、教材作成にも活用できる。

ネット環境にないため、苦労している。

保護者との連絡、事務作業を行う上で規定上ネット環境が使えないことがとても不便です。このアンケートも自宅から個人のタブレットで送っています。

ICT環境にないため、研修前後の手続き等が、自宅またはスマートフォンでの対応となっています。

回答にもありましたがICT環境がまったくないことが、指導だけでなく事務処理等の点でも非常に困っています。このアンケートについても通信は自費になってしまっており、会計年度任用職員としては辛いと感じます。

保護者は当たり前と思っているネット環境がないため教室運営における保護者との連絡に支障をきたしている。ズーム等の研修でも小学校の先生にお願いするなど、自分たちの力だけではできない。

ネット環境がないため、不便な事が多くあります。（静言研のメール確認、調べ物、教材づくりなど。）市にお願いしてもなかなかネット環境まで考えて頂くのが難しい状況です。

＜研修＞

構音研修を増やしてほしい

市教委の研修が少ないため、静言研の研修は大変ありがたく、勉強させたいただきました。

研修が休日のことが多いため参加できないことが多い。

研修は平日にしたいが、その分教室指導時間が減ってしまうので、そのバランスが難しい。休日の研修も多々紹介がくるが、個人申込みだったり、会費は自費だったり、休日がなくなったりする。
自己研鑽だと考えて取り組んでいるが、取り組みや選択が、個々に任されていて、それでよいのかと思うこともある。

自立活動の指導の組み立てや見立ての研修が少なくて困っている。他の教室の指導を見学する機会がほしい。
定数化に向けて、地区によって、担当者の指導の質に差が出ないようにすることが大切だと考える。そのために、県と静言研が協力して、研修等が推進されると、よい指導につながるのではないかと思う。

土曜日の講習会が平日出張扱いにしてもらえるとありがたい

普段から他の通級担当者に悩みを相談したいが、なかなかできない。

＜後継者育成・人事・増設・定数の関係＞

幼児ことばの教室の指導員の求人をしたところ、仕事内容は魅力的だが、非正規で給与面で劣るという理由で、申し込みを辞めた方がいた。
幼児ことばの指導は、専門性のある業務内容であるが、待遇と見合っていない。そのため、なかなか人材が集まらない。待遇改善をお願いしたい。

前任者が産休に入り、通級指導に対する知識が乏しいまま、１２月から担当になったため、毎日困りながら担当しています。前任者のやっていたことを見よう見まねでなんとかやっている状態です。

静岡市では１０年３校研修で通級にも配属されるが２校目で通級に配属になる場合、複数の学校での経験がなかったり、関わったことのない学年もあったりするため、もう少し通常の学級、学校の経験を積んでからの異動が望ましい。
通級初担当の教員への指導が各教室に任せる形になっていて、他市のようなバックアップが少ない。

今年度は特別な形で育成枠ということで、通級指導を担当して様々な経験をすることができ、通級指導の奥の深さや大切さ、今後の必要性を感じることができました。
しかし、来年度からはすべて1人でやることに対して、不安しかありません。まだ、自分の形が定まっていない状態で、通級指導の担当を続けてもいいのかと悩んでいます。通級指導の担当者があまりにも少ないため、なかなか相談できず、日々苦労しています。令和8年度から定数化されるようですが、通級指導の担当者の育成があまりできていないことを考えると難しいのではないかと感じます。通級指導の担当者だけに任せるのではなく、学校全体または地域全体で、通級指導の今後の在り方について考えていく必要があると強く感じています。

継続的に通級指導の担当者をする方が減ってしまい、市内のどの教室も経営全般に問題を抱えている。

担当人数が多く、十分な指導回数を確保することができない。結果、退級者も増えず悪循環。

通級指導教室の存在意義が薄れてきている。復職復帰訓練の場になってしまっている。

地区に１人の担当で、後継者の育成に大変困っている。（２人いれば伝承もできるが）２人いればベテランに教えてもらいながら若手が短いスパンで代わるということができるが、それが可能にならない。１校７年で異動ということもあって、やる気とスキルをもった人が異動になるのも大変困る。

重ねて、巡回指導担当を増員してほしい、ハーフ勤務でも良いので。

送迎の負担を考えると、北部校にもサテライトなどで、子どもが事項で通級を受けられるようにしてあげたい。
３年の上限になってしまった子の保護者から、中学に通級がないことへの不安をよく聞く。高校進学への合理的配慮を希望していても、中学に通級がない状況なので、どうしていけばよいか、困っている。

令和８年度からの１３名定数化とは具体的にどのようなものなのか、教えていただきたい。ニーズが少しでもあれば、各市町に通級指導教室が開設できるのだろうか。それとも、この考え方は的外れなのか。
賀茂地区の学校の中心部に当たるのが下田とはいっても、片道１時間弱かかる場所は遠方にあたる。ニーズのある子どもはいるのだが、最初から通級指導に関して話題に上がってこない地区は多い。また、市町をまたぐとシステム上困難な面もある。市町によって、特別支援教育の認識の遅れもある。県教育委員会主導のもと、各市町への通級指導教室認知やインクルーシブ教育の研修会実施をもとめたい。
自校に通級指導教室があることで、学校、保護者、本人の困り感が軽減するのは明白である。心身の安定のために、居場所づくりとしての通級指導教室を推進したい。

LDの児童が中学校での合理的配慮を求めるにあたり、受け入れる中学校の体制が整っていないことが多い。LDへの理解が深まり、必要な支援を受けられるようにしてほしい。

通級指導教室担当者の定数化についての件の動向を知りたい。

＜環境＞

定数の実現を目指し、担当者の人数は少しづつ増えているが、指導室、保護者用駐車場の不足などがある。

指導室が少ない。

昼間に時間が空いているということから、完全に校内の助勤要員扱いをされている。通級指導担当にとって、通級児がこない時間帯が通常学級担任にとっての放課後と同じような時間帯になるために、その時間に校内研修をしたり、書類作成をしたりしたいのだが、本年度はコロナ禍の中で助勤回数が多く、２学期には在籍校訪問にすらいけなかった。
通級５クラスあるのに直通電話がなく、放課後の時間帯などは通常級の先生方と回線を取り合う状況になり保護者との連絡に大きな差しさわりがある。
保護者の駐車スペースが狭く、いろいろ大変

＜その他＞

今回からグーグルフォームで回答できたので楽にできました。ありがたいです。

静岡市では１０年３校研修で通級にも配属されるが２校目で通級に配属になる場合、複数の学校での経験がなかったり、関わったことのない学年もあったりするため、もう少し通常の学級、学校の経験を積んでからの異動が望ましい。
通級初担当の教員への指導が各教室に任せる形になっていて、他市のようなバックアップが少ない。

アンケートの質問内容問い２２　「発達障害」については、迷いました。知的障害傾向や自閉症や多動などの傾向はないわけではないが、何とかやれている場合はカウントしませんでした。

期日を過ぎて、大変申し訳ありませんでした。

浜松市は校長会のなかに通級部がないようなので、通級担当の要望が教育委員会に伝わりにくいように思う。他市はどうしているのか知りたい。

発音指導において、完璧に改善しなくても、インクルーシブの考えから、少し発音が違っていても周りの子供たち、教師等が受け入れてくれるようになってほしい。